

第48回新生ふくしま復興推進本部会議

○日 時：平成28年2月8日（月）9：30～9：40

○場 所：特別室（本庁舎2階）

【鈴木副知事】

ただ今から、新生ふくしま復興推進本部会議を開催いたします。

早速、報告事項の一つ目、「津波被災地における復旧・復興事業の完了見通しについて」、土木部長。

【土木部長】

資料1-1をご覧ください。津波被災地における生活の安全・安心を支える公共土木施設等の復旧・復興事業について、集中復興期間から復興・創生期間へ新たなステージを迎えるにあたり、個別の事業箇所ごとに完了見通しを報告するものであります。これによりまして、津波被災地の復興まちづくりや帰還に向けた取組に弾みをつけてまいりたいと考えております。

今回、公表の対象とする事業は、土木部、農林水産部で所管している、津波により被災を受けた浜通り沿岸部9市町村における河川、海岸、排水機場、港湾・漁港、道路、防災緑地、海岸防災林、治山施設等に関する復旧・復興事業であります。資料1-2に示しておりますとおり、個別の事業箇所ごとに完了見通しを示してございます。

資料1-1の2「各事業の完了見通し」にお戻りください。各事業の完了見通しは、年度ごと、必要な予算確保が前提となりますけれども、平成28年度までには約8割、平成29年度までには約9割、平成30年度までには、ほぼ完了し、平成32年度までに全て完了する見通しとなります。

次に、3「各年度ごとの進捗見通し」でございしますが、平成28年度には、新地町の海岸堤防が完成し、防災緑地の盛土が概ね完成する見通しです。平成30年度までに漁港・港湾、道路、排水機場等の復旧が完了することにより、全体として97%が完了いたします。平成32年度までには、全ての復旧事業が完了いたします。資料右下、参考の欄でございしますが、帰還困難区域における39箇所の道路において査定を受けており、平成29年度までに完了の見通しです。平成28年度の当初予算を踏まえ、引き続き、復旧・復興事業を確実に進めてまいりまして、早期完成に向けて全力で取り組んでまいりたいと思っております。以上でございます。

【鈴木副知事】

続いて、農林水産部長。

【農林水産部長】

農林水産部で所管する復旧事業は、資料1-1にあります主に海岸防災林、治山施設でございますが、早期復興に向けて全力で取り組んでまいります。このうちの特に海岸防災林については、他の復旧事業と調整しながら整備を進めているところでございますが、総延長が約37キロメートル、面積にいたしまして670ヘクタールとかなり膨大なエリア造成ということになりますので、共有地等の用地買収あるいは堆積物の排出など、事業実施に係る課題がたくさんございます。整備には時間を要しておりますが、関係機関と連携を密にして、平成32年度までの完成に向けて全力で取り組んでまいりたいと思っております。

【鈴木副知事】

その他、ありますか。

なければ、知事からお願いいたします。

【知事】

これまで、東日本大震災で被災した公共土木施設や農地・農業用施設等について、早期の完成を目指して、復旧・復興に全力で取り組んでまいりました。津波被災地における復旧・復興事業の完了見通しがついたことで、浜通り沿岸部の復興にさらに弾みがつきます。引き続き、被災地の皆さんが安全に、そして安心して暮らせるよう、早期完成を目指して関係機関が連携をして、復旧・復興事業に取り組んでください。

【鈴木副知事】

次に、報告事項の2つ目「ふくしま復興のあゆみ」と、3つ目「ふくしま復興を考える県民シンポジウムについて」、まとめて、企画調整部長から。

【企画調整部長】

資料2の復興のあゆみ第14版をお願いいたします。前回からの主な変更について説明いたします。

3ページをお開きください。左下の避難者数の推移でございます。平成28年1月現在ですが、10万人を切りまして、99,750人となっております。前回から3ヶ月間で5,536人が減っているということでございます。同ペ

ージの右上には、先般竣工式を行いました大熊町のメガソーラー、そして、ふたば復興診療所「ふたばリカーレ」を新たに記載しております。

9ページをご覧ください。左上に、本県の農業産出額、平成26年の数値を新たに追加しております。下がっておりますが、この主な要因といたしましては、お米でございます。アスタリスク2つございますが、米につきましては、平成24年以降、作付面積、収穫量とも増加傾向にあるものの、平成26年は全国的に米価が大きく下落し、本県の米の産出額も大きく減少したということが経緯でございます。

11ページをご覧ください。ページ下の方に、アフターDC、そして来年度上半期にある主な観光イベントについて記載をさせていただいております。

12ページをご覧ください。産業振興と雇用の創出ということで、右側、いつもは鉱工業生産指数のみでございましたが、製造品出荷額等の推移も今回新たに記載しております。こちらの指標につきましては、改定した復興計画にも掲載しておりますが、解説的にキビタンのコメントを記載しております。鉱工業生産指数を見ると依然として震災前の水準まで回復しておりません。これは従来から県内に立地する製造業の生産量が低迷しているためであり、平成22年から同じサンプルを取っており、100に対して87.2という数字になっております。一方で、製造品出荷額等は、ゴム製品などの業種で出荷額が伸びており全体で見ると震災前の水準までほぼ回復しておりますが、双葉郡では地域差が出ている点を明記させていただいております。以上、主立った変更点についてご説明いたしました。

続きまして、資料の最後に、2枚カラーのチラシをつけております。1枚は、先般発表いたしました、3月11日開催の「ふくしま追悼復興祈念行事」についてでございます。もう1枚の方、「ふくしま復興を考える県民シンポジウム2016」について概要が固まりましたので、ご報告いたします。

今年で3回目となるシンポジウムは、3月13日（日）郡山市のホテルハマツにて開催いたします。今回は、コーディネーターにNEWS ZEROでおなじみの村尾キャスターをお迎えし、福島ホープス監督の岩村氏による基調講演や、県内で頑張っている3名の方による事例発表をしていただいた上で、パネルディスカッションになります。パネルディスカッションには、知事、村尾キャスター、福島大学の開沼先生、衆議院議員の小泉氏をお迎えして「復興の新たなステージ」をテーマにディスカッションを行います。2月12日（金）から募集を開始いたしますので、ご周知のほど、よろしく願いいたします。以上でございます。

【鈴木副知事】

これまでの説明について、何かございますか。
なければ、以上で復興推進本部会議を閉じます。